

天主閣

だより



マキキ聖城キリスト教会

「聖書に親しむ」

中台 孝雄牧師

十月にマキキ教会で三週間過ごしました。皆様からのあたたかいおもてなしをいただき、感謝しています。新しく大きな家族が与えられたような気持ちでいます。また再会の機会があれば、皆様とお会いしたいと思います。

さて、この秋、日本では新改訳聖書の新しい改訂版が「聖書 新改訳二〇一七」として出版されました。前牧師の具志堅聖先生がこの秋から赴任しておられる日本聖書協会も、来年度の新しい翻訳「聖書 聖書協会共同訳」の出版に向けて最後の作業を進めているところです。

英語聖書はもともと数多くの翻訳がありますが、日本語でもさまざまな翻訳に親しむことができようになるわけです。とはいっても、信徒の皆さんにとっては戸惑つことも多いでしょう。せっかく暗記した聖句が変わってしまった、慣れ親しんだ翻訳がいい、と感じたり、そもそもなぜ次々と新しい翻訳を出さなければならぬのか、と疑問に思ったりすることでしょう。

一つには、聖書学の進展によって、「ごく細かいところですが聖書本文の新しい(正しい)意味が分かってきた」といった要素もあります。また時代とともに一般に使われる用語も変わり、同じ言葉でも別の意味になったりしますし、差別語の問題

もありませんので、その時代にあった表現にする必要があります。(例えば、さすがに聖書には出てきませんが「やばい」という表現は、以前の意味と今若い人たちが使っている意味とは、正反対の意味になってしまっています。若い人たちは「驚くほどすく良い」という意味で使うのです。)

今回、私が礼拝(十月二十二日)で一回お話しさせていただいたヨハネの福音書二十一章です。礼拝で触れた箇所では五節の「食べる物」が「食べる魚」に変わっています。もともとの意味が「主食のおかず」を指す語で、おかずが魚が多かったから、魚を指す表現として用いられるようになったからです。ちょうど日本語の「酒菜さかな」が、酒のつまみには魚が多かったので、魚を指す意味で「さかな」と用いられるようになったのと同じです。主イエスは「食べ物はあるか」というより、「(一晩漁をして)魚はとれたのか」と湖上の弟子たちに声をおかけになったのです。

七節の「ペテロは：裸だったのは」は「：裸に近かった」と多少気を使った訳語になりました。大きく変わったのは十五節「この人たち以上に、わたしを愛しますか」という主イエスのペテロへの問いかけが「この人たちが愛する以上にわたしを愛しますか」と変わったことです。

これは原文では「この人たち(あるいは「これら」)以上にわたしを愛しますか」という表現で、何と何が比較されているのか、曖昧なままの表現でした。ペテロがこの人たち(他の弟子たち)を愛する以上に主イエスを愛するか、と問われているとも考えられますし、ペテロが以前の漁師の仕事や網や船を愛する以上に主イエスを愛するか、と問われているとも考えられます。そして「この

人たち(他の弟子たち)がわたしを愛する以上の愛をもって、あなたはわたしのことを愛していませんか」という問いかけとも考えられます。

従来の翻訳は、本文の意味が曖昧であることをそのまま訳し、読者それぞれが自分の状態に置き換えて、主イエスから私はどのような愛が求められているのか、と自省する余地を残してしましたが、新しい翻訳はかなり踏み込んで一つの見解(自分自身の中の愛の比較ではなく、他者と自分との間での愛の比較)を採用するようになりました。この訳ですと、主イエスがこの場面でペテロに対して、他の弟子たちとの間での、主イエスを愛する「愛の競争」をはたして問いかけているのだろうか、との疑問は残ります。

それがはたして正しい(ふさわしい)翻訳なのかどうかはさておいて、さまざまな翻訳に触れることによって、より深く、より広く、聖書の教えを黙想し、神のみこころを思い巡らす可能性が広がることは確かです。

どうぞ、マキキ教会の皆様も、(種々の翻訳をいつも比較する必要はありませんが)、日々聖書に親しみ、読み続け、これはどういう意味だろうかと考え、神のことを思い巡らし、神に養われる信仰の歩みをいつまでも続けられますように。

またお会いしましょう!!

今月の言葉

寿命という大きな空間の中に
自分の瞬間をどう入れるかが、
私たちの仕事

今後の予定

- ☆十二月のメッセンジャー
- 十二月三日 ウェイン・イバラ牧師
- 十二月十日 ～二十四日 原田 憲夫牧師
- ☆ クリスマスイブ礼拝 二四日 五時半より
- ☆ 「心に光を」クリスマス
- 十二月七日(木)オリベット・バプテスト教会
- 午後六時半開場 午後七時開演
- ゲスト・シンガー

MANAMI

沖縄県那覇市出身、学生時代を東京で過ごし二〇〇八年世界的プロデューサー、フאלル・ウィリアムス(二〇一四年グラミー賞受賞)と世界的デザイナーNIGO主催の『STAR BAPE SEARCH』でグランプリを受賞。

沖縄のビックイベントには欠かせない存在となり沖縄を代表するシンガーへと成長した Manami は二〇一六年、十周年を迎えたオリオンサザンスタ―でもお馴染みである「昨日の僕を越えていく」、またオリオンサザンスタ―CMソング「踊れティード」を含むファン待望のアルバム「踊れティード」をリリース。楽曲は、樺坂46や前田敦子などの楽曲を手がけ、日本の音楽シーンの第一線で活躍中の実の弟 Daisuke Nakamura がプロデュースしている。日本国際飢餓対策機構 親善大使。

ゴスペル・フラ、ハレルヤコーラスチームも出演。イエス様の降誕を皆で喜ぶ時となりますように。チケットは十二^{ドル}。

宣教部まで

今月の証

「神はおられる」

Hazard カレン

私が生まれたのは、支那事変の始まった年で戒厳令のしかけていた横浜でした。小学校に入学した時にはすでに、長兄は戦地、次兄は工場、姉も強制で働かされておりました。三歳下の弟の居る家で両親と共にそれでものんびりと暮らしておりました。やがて爆撃機が昼夜来るようになり、学校に行ってもすぐに集団下校となりました。先生方が見えなくなると上級生たちは弟や妹の手を引っ張って行って行ってしまう、私は一人きりになりました。爆撃機の音と林の中に突き刺さる爆弾の破片の音で体が硬直し、歯がガチガチ鳴るだけで歩けません。這いずりながらここで死ぬのかと恐怖のあまり声もでませんでした。

やがて終戦となり、ニューギニアから帰ってきた兄との生活が始まると家の中が暗くなり、九歳の私には辛いものとなってゆきました。叱られないように静かにしていなければならず、いつも本を読んでいた。翻訳ものが好きで次第にアメリカ、ヨーロッパの人々の考え方や食べ物等に興味を抱くようになってゆきました。ヴィクトル・ユゴーの「ああ無情」レ・ミゼラブルが私をキリスト教に引き込んだ最初の本でした。ラジオ放送で、ルーテル・アワーも楽しみで聞くようになっていきました。牧師さんの話し方が他の大人の話し方と全く違うので外国人ではあるまいかと父に聞いたほどでした。それがきっかけでキリスト教の話になり、父がこのあたりにも、その昔、踏み絵をさせる役人が来たとき代々家に伝わるその様子を話してくれました。ローティーンからハイティーンになると、学校に行きながら、お花、お茶などを習わされ、頼みにしていた父からも女のたしなみ

だからと言われお稽古を続けなければいけません。数年してこのまま姉のように結婚させられるのではと、自立のことを考えるようになり、英語もこつこつ勉強をしていました。

まさかこの英語が、神によって与えられていたなどとは思っていませんでした。初めに神への畏敬をおぼえました。私と聖書との間の不一致の多いことか、一致するのは罪の所だけでしたから改めてシヨックでした。その夜私は祈りました。私の中にある驕り高ぶった思いと願い、傲慢な、かたくなな心、自分が第一として生きて来た日々など等を悔い許しを乞いました。

私の中から苦しかった気持ちがなくなり、やすらかな気持ちになりました。そして数週間が過ぎたと思います。いつものようにバイブル・クラスを終え外に出、隣のビルの窓に目をやった時、私の中に「神はおられる、神はおられる」という思いが沸き上がったのでした。体をズシーンと突かれたように感じました。数々の御業が映画のシヨート・シーンのようによぎりトマスがイエス様に「信じる者になりなさい。」と言われている様子が見えるようでした。私にも言われたのです。そしてイエス様が神の御子であられると言わしめる聖霊をくださったのでした。この時を界に十五年もの間、熱が出るたびに見た悪夢がびたり止まりました。空襲のさなか、集団下校しても一人置き去られた林の中、爆弾の破片の突き刺さる音、恐怖で歩けず這いずっている私の背中に突き刺さるかも知れない、そして死ぬのだとあえいだその夢でした。私は死への恐怖からとかれ神への信頼と感謝と喜びに満たされました。

大和市南林間にあります、高座教会の生島牧師がバイブル・クラスの担当をして下さるようになった数年後洗礼を受けました。親の賛成しないア

メリカ軍人との結婚にも勇気が出、もう迷いませんでした。米国民権の獲得、ハワイへの移住、そしてすぐに沖繩への赴任、そしてフィリピンへと大変めぐるしい年月でした。夫は熱心なクリスチャンでしたから、どこに行っても日曜礼拝だけは欠かせませんでした。結婚生活の中では時々口喧嘩がありました。喧嘩を宵越しにしないというのが私たちの約束でしたので守ったのでした。二〇〇五年十年間の闘病生活の後、夫は亡くなりました。私にとっては介護生活でしたが、六フィート四で、体重二二〇ポンドの夫の世話に必要な知識等はその都度、神様から賜ったもので、言い尽くせない程の恵みと感謝の十年でした。これから私の生きていく日々が恵まれて、行いを伴った信仰生活となりますよう祈っています。

編集後記

感謝祭おめでとうございます。今年もハワイー美味しいターキーをマキキ教会で食べられたことに感謝します。普段ゆっくり話す事のない兄弟姉妹たちとの何気ない会話に「主が与えてくれた家族は良いな」と思います。さあ、これからは私達クリスチャンにとっては大事なシーズン。イエス様の誕生を心から喜び、個人的な救い主との出会いが、皆様にありますよう祈ります。「心に光を、クリスマス」にお友達をお誘いして是非お出かけ下さい。

マキキ聖城キリスト教会 宣教部
編集 玉寄朋子
イラスト、レイアウト 大塩麻由

テリーさんの簡単クッキング

焼き餃子 (テリー餃子)

25 個分

<肉あんの材料>

ねぎ 10 センチ、白菜かキャベツ 250g、塩小さじ 1/2、しょうが 1 片、豚バラのひき肉 200g、ゴマ油 大さじ 1、干しエビ大 3、しょうゆ大さじ 1、ニラ 半束

- ① ねぎ、ニラ、しょうが、干しエビは細かく刻み、白菜は湯通しして、水に入れ、刻んでしぼる。キャベツはブレンダーで刻む。
- ② 豚肉に、ねぎ、しょうが、干しエビ、にらを入れ、しょうゆ、塩、ゴマ油を加えて、良くねり混ぜる。
- ③ 肉にねばりがでたら、キャベツと混ぜ合わせて、皮の中央に、スポンで入れ、二つ折にして、端からひたをとるように形よく包む。
- ④ 厚めのフライパンを熱くし、油を入れ、餃子を入れ
- ⑤ フライパンを軽くゆすり、餃子が動いたら、熱湯 1/4 カップ入れ、フタをして中火で、むし焼きにし、水分がなくなったら、餃子のまわりに、ゴマ油を少々入れ、フタを取る。

<餃子のたれ>

酢、しょうゆに、練りからし、ラー油、ニンニク、豆板醤をお好みで